

2025年5月23日（金）

老球の細道869号

県高校体育大会会津地区大会観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

地区大会が終了した日の夜、珍しく会津協会顧問の林孝雄先生から電話が来た。地区大会を観戦できなかったのが様子を教えてほしいとのことであった。林先生は80歳を過ぎても、今でも大会があれば体育館に足を運び試合を観戦してくれる。林先生自身は1980年代の若松女子高校（現会津学鳳高校）全盛時代を築き、1980年には県大会で優勝し、全国インターハイ出場を果たしている。その後45年間、わが会津地区からは女子のインターハイ出場チームは出ていない。次はどのチームが、誰がこの偉業をやり遂げるのか。

林先生は電話でしみじみと語っていた。今でも現役コーチ時代の夢を毎日見る。そしてまだまだどこかのチームを指導したいと思っている。言葉は悪いが「バスケットボールコーチ」という中毒にかかってしまうと一生その中毒症状は続くのか。

さて今年の会津地区大会はじっくり観戦する時間がなく、肝心の男子決勝戦を見逃してしまった。観戦した主なゲームのシンプルな感想を述べてみたい。

男子は、大会2日目に会津高校が第1シードの会津工業を破るアップセットがあった。会津工業持ち前の速い展開のゲーム運びが見られず、会津高校のペースで最後まで押し切れ、よもやの敗退となった。最終日に会津高校はアップセットの勢いをキープして若松商業に臨んだ。前半は会津高校のペースで進んだが、若松商業のゾーンディフェンスとリバウンド力に勢いを止められ、最後は若松商業に勝利の女神がほほ笑んだ。

優勝した会津北嶺高校は2年生主体のチームだが能力はすばらしい。県大会で確実に勝ち上がっていくには、何と言ってもディフェンス力がカギとなるだろう。会津地区の高校2年生世代はミニの時代県大会優勝、中学校時代は県大会準優勝を経験している選手達が多くさんいるのでこれからが楽しみである。地区全体で大切に育ててほしい。

一方女子のゲームは会津高校と若松商業2強の争いで、インサイドの会津、アウトサイドの若松商業とチームの特徴が良く表れた決勝戦となった。3Pをミラクルに決めた若松商業が最後追い上げたが、リバウンドで勝る会津高校がなんとか逃げ切り優勝を勝ち取った。

特に目を引いたのはインサイドで大活躍した会津高校のMさんである。彼女は高校からバスケットを始めた異色の存在であるが、ミニ、中学で経験して来た人がなかなかできないワンハンドシュートができる。ペイントエリアでのコンタクト下でのシュートもワンハンドパワーレイアップで決める。ファールをもらって、フリースローもきれいなワンハンドシュートである。高校からバスケットを始めても、2年ちょっとできれいなワンハンドシュートを打ち、自分の特徴あるプレイでチームに貢献できることを実証してくれた。

県大会まであと数日間。準備すべきことは「神は細部に宿る」。細かいところ、地味なところのチェック、そして基本に返ることである。中国の作家魯迅も言っている「枝葉を取り除いてしまう人は、絶対に花や実を手に入れることができない」。